

トヲ禁ス

其三 榮譽章ヲ得及ヒ貴族タルトヲ禁ス

其四 陪審人評價人及ヒ証書類ノ証人ト為

リ又事實ヲ陳述スルノ外裁判事件ニ

就テ證據ヲ申告スルトヲ禁ス

其五 親族會議ニ參與シ及ヒ所生ノ子ニ係

ル事ト雖モ親族會議ノ承諾ヲ得スシ

テ其後見人或ハ監察人ト為リ又ハ監

財者及ヒ裁判所ヨリ任スル所ノ會議

人ト為ルトヲ禁ス

其六 兵器ヲ有シ及ヒ郷保兵ト為リ且兵籍

ニ入ルトヲ禁ス

第三十二條 裁判所ハ囚獄及ヒ徒場驅役ノ刑

ヲ受クヘキ罪人ニ對シ或ハ終身或ハ十年以

上二十年以下ノ定期ヲ以テ前條ニ記セシ所

ノ全分若クハ幾分ノ權ヲ剥奪スルトヲ得

シ

第三十三條 裁判所ハ法律上ノ定規アル場合

ニ於テ輕罪ノ刑ヲ受クヘキ罪人ニ對シ五年

以上十年以下ノ定期ヲ以テ第三十一條ニ記

セシ所ノ全分或ハ幾分ノ權ヲ剥奪スルトヲ

得ヘシ

第三十四條 言渡書ニ於テ定メタル民權剥奪

ノ期限ハ其本刑ノ終期ヨリ起算ス可キ者ト

雖モ之ヲ實踐スルハ其本刑裁斷ノ確定セシ

日ヨリ始ム可キモノトス

○瑞典 千八百六十四年二月
十六日ノ刑法

第二章第十九條 法律上明ナル定規アルニ於
テハ終身或ハ有期ノ民權剥奪刑ヲ受ケシム
ヘシ而ノ其定期ハ五年以上十年以下タルヘ
シ
民權剥奪ノ刑ヲ受タル者ハ大小諸官務ヲ失
ヒ其他民權ヲ絶タレシ者ハ通常人民ノ保有
セル諸權利ヲ失フヘシ

○ブレームン 千八百六十八年ノ刑法草案

第九章第三十九條 禁獄ノ刑ヲ受タル者ハ兼
テ公務ヲ禁スルノ言渡ヲ受ケスト雖モ其人
禁獄ノ刑期中ハ總テ大小ノ官務及ヒ其俸給
ヲ失フヘシ

第九章第四十條 徒刑ヲ受クヘキ者ハ必ス民
權ヲ剥奪セララルヘシ

第九章第四十一條 民權剥奪ノ刑ニ包含スル
所左ノ如シ

- 其一 政府及ヒ州邑教會或ハ施濟院等ヨリ
俸給ヲ受クヘキ職務ヲ失ヒ又元老院
ノ命及ヒ元老院ノ許諾ヲ得テ命セラ
ル所ノ職務ヲ失ヒ代言人及ヒ公選ニ
依テ得タル所ノ諸職務ヲ失フ
- 其二 前項ニ記シタル各職務ニ属シタル等
位尊称及ヒ權利ヲ失フ
- 其三 第一項ニ記セシ各職務ヲ求ムル事ヲ

禁シ又政府州邑及ヒ教會ノ會議ニ參
與シ且人ヲ選舉シ及ヒ選舉セラレ
ヲ禁スルヲ

其四 兵籍ニ入ルヲ禁スルヲ

第九章第四十二條 第四十一條ノ第三項ニ記
セシ所ノ禁ハ其期限十年以下タルヘシ

第九章第四十三條 職務ヲ失フヘキノ刑ヲ受
ケタル者ハ其官ニ屬スル榮譽尊称及ヒ諸權
利ヲ奪ハルヘシ

第十章第四十四條 第四十一條ニ記載セサレ
ル或ル場合ニ於テ裁判言渡書ニ記載スヘキ
民權剥奪ノ刑ハ法律上特別ノ定規アル者ヲ
除キ徒刑ニ就テハ二年以上十年以下其他ノ

刑ニ就テハ一年以上五年以下タルヘシ

第十章第四十五條 証人為ルヲ禁セラレシ
者ハ裁判言渡ヲ受クルノ際誓ヲ為シテ證據
人ト為リ又評價人及ヒ証書ニ付テノ証人ト
為ルヲ得ス此禁ニ包含スル所ノモノ左ノ如
シ

其一 動産静産ノ税ヲ納ムルニ付テ誓ヲ為
シ又自ラ其價ヲ評シ及ヒ自己ノ名目
ヲ以テ保証人ノ如キ者アリ納税ノ取
扱ヲ為スルヲ得ス

其二 輸入税ヲ納ムヘキ物品ニ就テ誓ヲ為
シ暫ク無税ニシテ自家ノ倉庫ニ藏ム
ルヲ得ス

其三 航海客ノ事ニ就テ周旋スルヲ得ス
其四 右ノ諸禁ヲ受ケタル者ハ其所有船舶

ニ係リタル諸件ニ就テ官府ヘ對シ自
己ノ一名目ヲ以テ其弁理ヲ為ス
得ス

事宜ニ依テハ第一項ヨリ第四項マテノ事ヲ
全ク禁シ或ハ第一項ヲ除キ第二項ヨリ第四
項マテノ事ヲ禁スルヲアルヘシ

第十章第四十六條 後見人タルヲ禁セラレ
シ者ハ後見人及ヒ監財者ト為リ又現ニ後見
人及ヒ監財者タルノ權ヲ失ヒ或ハ所生ノ子
ノ為メナルモ親族會議ノ承諾ヲ得ス
シテ其財產ヲ取扱フヲ得ス

○カリツク 千八百六十六年ノ刑
法草案瑞西ノ一州

第十五條 加辱ノ刑ハ

- 其一 民權剥奪
- 其二 免官
- 其三 後見人及ヒ監財者陪審人又裁判ノ証
人為ルノ禁

其四 茶亭酒樓ニ至ルノ禁

第十六條 民權剥奪ノ刑ハ徒刑ニ接續シ而メ
終身徒刑ノ外ハ八年以下ヲ定期トシ其期限
ハ本刑終期ノ日ヨリ起算スヘシ
第十五條ノ第三項ニ記セシ法禁ノ期限モ亦
上ニ同シ

第十七條 免官ノ罰ヲ受ケタル者二年以上十年以下ノ定期ヲ以テ裁判言渡書ニ記載シタル時間ハ官吏ト為ルヲ得ス又輕キ罪科ニ就テハ暫時間其職務ヲ停メ其俸給ヲ奪フヘシ然レモ其期限ハ三年ヲ過ス可ラサルナリ

第十八條 茶亭酒樓ニ至ルヲ禁スルノ罰ハ二年ヲ越ヘシム可ラス

○ヲルデングルグ 千八百五十八年七月三日ノ刑法

第十六條

其一 民權利奪ノ刑期ハ一年以上五年以下タルヘシ

其二 民權利奪ノ刑ハ裁判言渡ノ日ヨリ之

ヲ實踐スト雖モ其期限ハ本刑ノ終期ヨリ之ヲ起算スヘシ

其三 徒刑ニ在テハ五年間民權利ヲ剝奪スル

ノ刑ヲ加付スヘシ

第十七條 民權利奪ノ刑ニ屬スル者ハ

其一 諸ノ官職ヲ奉シ及ヒ諸ノ等位尊稱勲爵榮譽章等ヲ得ルヲ禁

其二 或ハ陪審人ト為リ或ハ公設會議ニ投言シ或ハ選舉ヲ為シ及ヒ選舉セラルルヲ禁

其三 諸証書ノ証人トナルヲ禁

其四 親族會議人ノ承諾ヲ得ルニ非レハ其子ノ後見人ト為リ及ヒ親族會議人ト

為ルノ禁

其五 海陸軍ノ兵卒ト為ルノ禁

第十八條 民權剥奪ノ刑ヲ受ケタル者ハ其以前他ニ選舉セラレ以テ得シ所ノ諸權利又諸官職等位尊稱勳爵榮譽章及諸ノ退養料ヲ失フヘシ而シテ又此刑ヲ受ケタル者若シ海陸軍士官ナルキハ之ヲ免官免役スルト否トハ只其軍律ニ從フヘシ

第九 監察

○佛蘭西

第四十四條

千八百五十一年四月八日決
定書ノ第三十項第四項第五項第六

項等
如左改ニ於テ

第三項 政府ヨリ監察ヲ為シ送致ヲ為

スニ因リ政府ニ於テ向後犯人ノ其刑期ノ終リシ後ニ居住ヲ為ス可キ地ヲ定ムルノ權ヲ生ス可シ○政府ニ於テ犯人ノ其居住ヲ為ス可キ地ニ常ニ住スルヲ證スルニ適當ナル式ヲ定ム可シ

第四項 政府ノ監察ヲ受ケシ犯人ハ巴
勒及ヒ其屬地内等ニ居住スルヲ禁

為ルヲノ禁

其五 海陸軍ノ兵卒ト為ルヲノ禁

第十八條 民權剥奪ノ刑ヲ受ケタル者ハ其以前他ニ選舉セラレ以テ得シ所ノ諸權利又諸官職等位尊稱勲爵采譽章及ヒ諸ノ退養料ヲ失フヘシ而シテ又此刑ヲ受ケタル者若シ海陸軍士官ナルキハ之ヲ免官免役スルト否トハ只其軍律ニ從フヘシ

第九 監察

○佛蘭西

第四十四條

千八百五十一年四月八日決
定書ノ第三十項第四項第五項第六

如項等
左改ニ於テ

第三項 政府ヨリ監察ヲ為シ送致ヲ為

スニ因リ政府ニ於テ向後犯人ノ其刑期ノ終リシ後ニ居住ヲ為ス可キ地ヲ定ムルノ權ヲ生ス可シ ○政府ニ於テ犯人ノ其居住ヲ為ス可キ地ニ常ニ住スルヲ證スルニ適當ナル式ヲ定ム可シ

第四項 政府ノ監察ヲ受ケシ犯人ハ巴
勒及ヒ其屬地内等ニ居住スルヲ禁

ス

第五項 前項ニ記載シタル犯人ニ於テ政
府ヨリ巴勒及ニ其屬地内等ニ居住ス
ルヲノ允許ヲ得ルニ非サル時ハ此命
ヲ布告シタル時ヨリ十日間ニ巴勒及
ニ其屬地ヲ退去ス可シ○其犯人ノ求
メニ應シ犯人ノ旧居ノ地又ハ其他犯
人ノ至ラント為ス地等ニ到ル迄其通
行ヲ為スヘキ道路ヲ定ムル救済ノ路
券ヲ給付ス可シ

第六項 第四項及ニ第五項ニ定メタル規
則ニ違背スルニ於テハ國ノ安寧ノ為
メ其犯人ヲ「ゲイヤン」ニ亞墨利加洲
ニ其犯人ヲ「ゲイヤン」ニ亞墨利加洲
ニ其犯人ヲ「ゲイヤン」ニ亞墨利加洲

地屬又ハ「アルセリ」ニ亞佛蘭西ノ屬地等
ノ懲治ノ藩屬地ニ遷徒スベシ

第四十五條 政府ノ監察ヲ以テ送致ヲ得シ者
ノ前條ノ規則ニ背ク時ハ輕罪ヲ審判スル裁
判所ヨリ五年ニ過ギサル期限間囚獄ノ刑ヲ
言渡ス可シ

第四十七條 有期ノ徒刑囚獄ノ刑徒刑場内ニ
於テ驅役スル刑等ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑
期ノ終リシ後一生ノ間政府ノ監察ヲ受ク可
シ

第四十八條 追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其
刑期ノ終リシ後其刑ノ期限ニ均シキ時間政
府ノ監察ヲ受ク可シ

第五十條 前數條ニ於テ定メタル場合ノ外法律ノ別段ナル規則ニ於テ允許セシニ非ル時ハ犯人ヲシテ政府ノ監察ヲ受シム可カラス

○獨逸

第三十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者ハ法律上ニ定メタル條々ニ循ヒ獄官ニ問合ノ上該官ノ決断ヲ以テ五年ヨリ長カラサル時間犯人ヲ政府ノ監察ニ附ス可シ其時間ハ其刑ノ満期又ハ棄捐或ハ赦宥セラレタル日ヨリ起算ス可シ

第三十九條 政府ノ監察ニ付スルニ付左ノ事件ヲ生ス

第一 政府監察ノ權ヲ以テ或ル場所内ニ犯人ノ居住ヲ禁スル事

第二 若シ犯人外國人ナラハ政府ノ監察以テ連邦ノ領地ヨリ放逐スルヲ得ル事

第三 政府監察ノ權ヲ以テ何時ニテモ犯人ノ居住ヲ搜索スル事

○埃及

第十七條 重罪ヲ犯シタル者更ニ輕罪ヲ犯シタル時ハ法律上ニ定メタル刑ノ外五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

第五十九條 重罪ヲ犯シタルニ因リ有期ノ徒刑ヲ言渡サレ又ハ徒刑ニ代ヘテ有期ノ繫獄ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ其刑期ノ終リシ後當然政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

第六十條 又重罪及ヒ輕罪ニ付キ法律上ニ定メタル場合ニ於テハ政府ノ監察ヲ受ケシムルノ刑ヲ言渡スヲ得可シ

第六十一條 犯人ヲシテ政府ノ監察ヲ受ケシムル時ハ政府ヨリ犯人ニ其罪ヲ犯セシ州内ニ住スルヲ禁シ又ハ人口五千人以上ノ府内ニ住スルヲ禁ス可シ○又其犯人ハ其居住セントスル地ト其旅行ノ路筋トヲ陳述シ之ヲ其旅行免狀ニ記ス可シ○其犯人ハ其赴

カントスル地ニ到着セシヨリ二十四時内ニ其地ノ官署ニ到着ノ旨ヲ届ク可シ○其犯人其住居ノ地ヲ轉セント欲スル時ハ三日前ニ其地ノ官署ニ其赴カントスル地ヲ届出テ更ニ新ナル旅行免狀ヲ受取ル可シ若シ此規則ニ背ク時ハ一年ニ過キサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ○如何ナル犯人ト雖モ別段法律上ノ定メアル場合ニ非サレハ政府ノ監察ヲ受ケシムヘカラス

○白耳義

第三十五條 凡罪ヲ犯シ警察ヲ受ヘキ者ハ其満期解放ノ後モ官ヨリ幾地方ヲ疆リ其人ヲ

シテ入ルヲ許サ、ルノ權アリトス
期限未タ滿タサルノ前其罪人ヲシテ已レ住
セント欲スルノ地所ヲ告ケシメ期滿テ路券
ノ示ス所ノ路程ニ從ヒ其ト居ノ地ニ到ラシ
ム可ク乃チ路程滯留ノ時間モ路券中ニ示ス
所ニ從ハシム
右罪人其地ニ到着スル二十四時間内ニ路券
中ニ記載セル所ノ官吏ノ前ニ出テシム可シ
又右罪人再ヒ居ヲ移サント欲スルキハ其行
發ノ三日前ニ之ヲ右官吏ニ告ケ其官吏ニ出
ス所ノ路券ヲ再ヒ請フテ後チ發スルヲ得可
シ但シ其路券中ニ右官吏ハ其人轉居ノ由ヲ
記載スル者トス

第三十六條 凡重罪ニ坐スル者ハ其罪案ニ從
放免後モ尚ホ^兵ホリス^審ノ警察ヲ受ケシム可
シ但シ此警察ハ五年ヨリ少カラス二十年ヨ
リ多カラサル可シ
若シ重罪ヲ再犯スル者有レハ終身ノ警察ヲ
受ケシム

第三十七條 凡罪懲治獄ニ該ル者ハ法律上ニ
於テ定條有ルニ係ル者ニ非レハ警察ニ付ス
可カラス

第八十八條 凡死刑終身懲役終身禁錮ニ論決
シ若クハ既ニ判決スル者モ國王ノ特命ニ依
リ赦宥シ勅書中別ニ書スル所無キ者ハ皆警
察ヲ受ケシムルニ十年トス

第九十七條 凡本刑措止ヲ得ル者ハ其措刑ノ
即日ヨリ警察ノ期ヲ算ス

第九十八條 凡死刑無期懲役無期禁錮ニ論決
スル者ハ措刑ヲ得ルト雖モ尚ホ警察十年ニ
處ス可シ

○墾地利

其十二 警察監護 其期限ハ四年ヲ超過ス可
カラス 刑法第五十九條第六十條
第六十條第九條合觀スヘシ

○伊太利

第二十六條 重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタ
ル者法律ヲ以テ定メタル場合ニ於テハ其刑

期ヲ終リタル日ヨリ政府ノ監察ニ付ス

政府ノ監察ニ付セラレタル者ハ何ノ地ニ住

所ヲ定ムルノ意アルヲ官署ニ申立テ且ツ法

律ト警察規則トニ定メタル方法ニ從ヒ身行

ヲ修ルヘキ保證ヲ立テサル可カラズ

又監察中ハ官署ヨリ犯人ニ或ル地内ニ其住

所ヲ定ムルヲ禁スルヲ得

犯人ノ官署ヨリ命シタル義務ニ背戾シタル

時ハ四ヶ月ヨリ一年ニ至ル禁獄又ハ囚獄ノ

刑ニ處ス但シ政府ノ監察ハ初メノ裁判言渡

ニ從ヒ其已ニ經過シタル期限ヲ除キ其科シ

タル期限ヲ受ケシム可シ若シ再ヒ其義務ニ

背戾スルキハ禁獄又ハ囚獄ノ刑ノ期限ヲ二

倍ニナスヲ得
外國人ハ政府ノ監察ニ付スルニ換ヘ之ヲ國
外へ放逐ス可シ

○普魯士

其十四 警察監護 ツスアテルアシウシテヘルポリ
刑ノ期限ハ一年以上十年以下タルヘシ
刑法第二十六條 此刑ハ一年以上十年以下
ノ期限ヲ以テ言渡スヘシ而シ其現況ノ執
行ハ其本刑裁判言渡ノ日ヨリ之ヲ始ト雖
氏其期限ハ本刑ノ終リシ日ヨリ起算スヘ
シ

第二十七條 警察監護ノ執行ハ左ノ如シ

其一 其地ノ警察吏ハ定マリアル場所ニ此
罪人ノ住居スルヲ禁スルヲ得ヘシ
其二 警察吏其罪人ノ家ヲ調査スルトハ時
刻ノ定限アラサル者ナリ

第二十八條 窃盜ヲ為シ及ヒ他ノ盜品ヲ隱匿
シタルノ故ヲ以テ刑ヲ受ケタル者兼テ此刑
ヲ受ケタルキハ其地ノ警察吏ヨリ許可ヲ得
ルニ非レハ夜間ニ其住居セル場所或ハ其家
ヲ出ルヲ得ス

刑法第二十九條 此刑ヲ受クヘキ者若シ外國
人ナルニ於テハ代ルニ追放ノ刑ヲ以テス可
シ

其十五 追放ノ刑 ルラワンイテスニ此刑ハ警察監護

ノ代トシテ只之ヲ外國人ニ用フヘシ刑法第九
見條ヨヲ

○「ヘ」ツセス

其十四 警察監護 此刑ハ一年以上五年以下
タルヘシ刑法第三十五條第三

○「サ」クソン、バイマール、アイゼナツク

其十二 追放 此刑ハ警察監護ノ刑ニ代ヘテ
特リ外國人ニ之ヲ用フベシ而シテ一年ヲ以テ
其最短期限トシ其最長期限ハ獨逸聯邦ノ人
民ニ於テ五年其他ノ國民ニ於テハ裁判官ノ
意見ヲ以テ五年ヨリ長クスルヲ得ヘシ

○「フ」ロシズウイック

其十二 警察監護 此刑ノ期限ハ一年以上五
年以下タルヘシ刑法第二

其十三 追放 此刑ハ警察監護ノ刑ニ代ヘテ
唯ニ之ヲ外國人ニ用フヘシ刑法第二

○「リ」ウベック

其七 警察監護 此刑ノ期限ハ一年以上十年
以下タルヘシ刑法第六十六條第二十四條第二十

其八 追放 此刑ハ警察監護ノ刑ニ代ヘテ唯
ニ之ヲ外國人ニ用フル而已刑法第七

○「ハンブルク」

其八 警察監護 此刑ノ期限ハ五年以下タル

ヘシ刑法第二十條ヲ見ヨ

其九 追放警察監護ノ刑ニ代ヘテ唯ニ之ヲ外

國人ニ用フヘシ刑法第二十條ヲ見ヨ

○「バウキエール」

其八 警察監護 裁判官特ニ此刑ヲ言渡シタ

ル時其地ノ警察官ハ其意見ヲ以テ二年ニ至

ル迄之ヲ用フルヲ得ヘシ刑法第三十九條及

警察法第三十條第一條第二十條

其九 警察禁錮 本刑ノ言渡書ニ此刑ヲ接用

スルヲ明記シタル時警察官吏ハ其意見ヲ

以テ一年ニ至ル迄之ヲ用フルヲ得ヘシ刑法

第四十條第四十條及ニ警察

其十 追放 此刑ハ唯ニ之ヲ外國人ニ用フヘ

キ而已刑法第四十五條ヲ參觀スヘシ警察刑法

○「フレイメン」

其十一 追放 此刑ハ特リ外國人ニ之ヲ用フ

ヘシ

第十 没収

○佛蘭西

第十一條 犯人ヲ政府ヨリ監察ヲ為シ送致スル事、罰金、犯罪ノ証據トナス可キ犯人ノ所有物又ハ罪犯ノ贓物及ヒ犯罪ノ時ニ用ヒ或ハ用ヒントセシ物等ヲ別段ニ没収スル事等ハ重罪輕罪等ヲ論セス用フ可キ刑ナリ

○獨逸

第四十條 有心故造ノ輕重罪ヲ犯シタルニヨリ生シタル物品又ハ其罪ヲ犯ス為メニ用ヒタル物品及ヒ設備シタル物品ニテ正犯及ヒ其從タル者ニ屬スル物ハ没収スルヲ得可

第四十三條 凡没入ハ重罪若クハ輕罪ニ施シ
行フト雖氏違警罪ニ向テハ別ニ殊法有ルニ
非レハ施シ行フ可カラズ

○墾地利

其八 物品ノ没収減却及ヒ物品ニ損害ヲ與フ
事 刑法第五十
六條見合

○伊太利

第四十八條

一 重罪及ヒ輕罪ノ刑ニ處セラレタル片ハ
別段言渡ヲナサズ氏直ニ其犯人ヨリ犯
罪ノ物件及ヒ犯罪ノ用ニ供シ又ハ其用

ニ供セントシタル物件ニシテ犯人ノ所
有品ナル片ハ之ヲ没収ス可シ

二 若シ其物件法律ニ從ヒ禁制品ナル片ハ
假令裁判言渡ナク又ハ其物件犯人ノ所
有品ニアラサルト雖氏之ヲ没収ス

○普魯士

其九 没収 カコトニヨヒス 此刑ハ只其罪科ニ關係
アル物品ニ就テ之ヲ用フヘシ

刑法第十九條 没収ノ刑ハ其罪ニ關係アル
物品ノ之ヲ取上ヘシ重罪及ヒ輕罪ヲ犯シ
テ造リタル物品及ヒ其罪ヲ犯ス為メニ使用
シタル物品ノ其者ノ所有品ナル片ハ之ヲ取

上へシ

書籍畫圖類ニ就テ罪ヲ犯シタル時ハ其裁判
言渡書ニ於テ本刑ノ外現ニ成就スル所ノ書
畫或ハ其版本ヲ破却スヘキヲ記載ス可シ

○「サクソン」

其七 没収

刑法第三百六十九條 官吏其職務ヲ執ルノ
際ニ他ヨリ賄賂ヲ貪リ或ハ官吏ヲ撰擧スル
ノ際贈物ヲ受ケタル片ハ其受ケシ所ノ物ヲ
没収シテ濟貧資金ニ加フ若シ其物品ノ現存
セサル片ハ其當價ノ金貢ヲ出サシムヘシ

○「ヘツセス」

其十一 没収
アコナヨヒニス 其罪科ニ關係アル物

品ニ而已之ヲ行フ 刑法第三十
一條ヲ見ヨ

○「サクソン、バイマアル、アイゼナツク」

其九 没収
刑法第九十八條ヲ見ヨ

○「ブロンツウイツク」

其十一 没収
刑法第二十
一條ヲ見ヨ

○「リウベツク」

其五 没収
刑法第九十八條
ト參觀ス
第十
一條

○「ハンブルグ」
其七 沒收 刑法見第十九條

○「バウキエール」
其七 沒收 刑法第三十條及七警察
刑法第十條ヲ參觀ス

○「フレイメン」
其十 沒收 刑法第六十一條
併法觀ス

第十一 犯由牌

○佛蘭西

第二十二條 無期ノ徒刑有期ノ徒刑及ヒ徒刑
場内ニ於テ驅役スル刑等ノ言渡ヲ受シ者ハ
衆人ニ指示ス可キ為メ其刑ヲ受クル前ニ於
テ一時間街衢ニ肆シ置ク可シ但シ其頭上ニ
姓名職業郷貫刑目及ヒ其犯由等ヲ大字ニテ
記シタル標榜ヲ建ツ可シ
有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑
等ヲ言渡ス時其犯人若シ再犯ノ罪ニ非ナレ
ハ上等裁判所ヨリ犯人ヲ公然ニ肆スルナカ
ル可シト言渡ス事ヲ得ヘシ
但シ十八歳以下七十歳以上等ノ者ニハ決シ

テ公然ニ肆スルヲ言渡スルヲナル可シ百十四

十八年第四月十二日
命令ニ於テ廢ス

第三十六條 死刑無期ノ徒刑有期ノ徒刑流刑
囚獄ノ刑徒刑場内ニ於テ驅役スル刑民權ヲ
剥奪スル刑追放ノ刑等ノ罪案ハ其文ヲ摘撮
シテ印刷ス可シ

○埃及

第四十五條 死刑無期又ハ有期ノ徒刑無期ノ
繫獄ノ刑無期ノ追放ノ刑級位ヲ得及ヒ公務
ニ任スルノ權ヲ剥奪スル刑公權剥奪ノ刑ノ
言渡書ハ之ヲ佛蘭西語意大利語埃及語ニ記
シテ其刑ヲ言渡セシ裁判所々在ノ州ノ首邑

中最モ著ルシキ場所重罪ヲ犯セシ地方及ヒ
處刑ノ地方中最モ著ルシキ場所犯人住所ノ地
ノ最モ著ルシキ場所ニ之ヲ貼附ス可シ○又右
言渡書ノ寫ハ前ニ記セシ各地裁判所ノ懸帖
ニ貼附シ且ツ州ノ鎮台官署及ヒ警察總長官
署門前ニ貼附ス可シ

○白耳義

第十八條 凡死刑若クハ終身禁錮若クハ終身
懲役ハ其犯由ノ畧ヲ印行シ犯所及ヒ裁判所
ノ邑ニ揭示ス可ク死刑ハ又其處刑ノ邑ニ掲
示ス可シ

第十二 役工錢

○佛蘭西

第二十一條 徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ノ言
 渡ヲ受ケシ者ハ男女ヲ論セス徒刑場内ニ入
 レ置キ苦役ヲ受ケシム可シ但シ其苦役ニ因
 テ造り出シタル物ハ政府ノ規則ニ循ヒ其一
 部ヲ犯人ノ所得ト為サシム可シ
 此刑ノ定期ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多
 カラサルベシ

第四十一條 輕罪ノ為メ禁錮ヲ受ケシ者ノ使
 役ヨリシテ生シタル物ハ一部ヲ懲治場ノ費
 用ニ供シ一部ヲ犯人ニ適當ナル勸娛ヲ得セ
 シムル為メノ用ニ充テ一部ヲ出獄ノ時犯人

＝與フル貯金ト為スヘシ但シ此等ノ事ハ官署ノ規則ニ循テ確定ス可シ

○埃及

第四十九條 囚徒ハ政府ヨリ定メタル規則ニ循テ各々其身体ト工技トニ相應セシ勞動ヲ為サシム可ク且ツ其勞動ヨリ得ル所ノ利益中其者ノ所得ト為ス可キ部分ハ政府ヨリ之ヲ定ム可シ

○白耳義

第十五條 第二三四項

役ニ依テ得タル賃銀ノ一分ハ之ヲ官ニ貯ヘ

満期出場ノ時若クハ出場後給與ノ定期ニ至リ之ヲ給付ス可シ

監役ハ其賃銀十分ノ四ヲ給シ懲役ハ其十分ノ三ヲ給シ餘ハ皆官ニ没ス

官ヨリ右貯金ノ半ハヲ以テ其受役中ノ用ニ供ス可ク若クハ其親族ニ要スル所以アレハ之ニ給ス可シ

第二十七條 凡罪囚懲治獄中ノ力役ヲ以テ得ル所ノ資産ノ一分ハ一部ヲ囚人ニ給シ其囚徒ヲシテ幾許カ便ヲ得セシムル為メニ之ヲ即給シ他ノ一分ハ豫メ官ニ貯ヘテ以テ他日其出獄ノ時ニ給シ生業ノ一資トセシム蓋シ獄中ニ即給スルノ事ハ其懲惡ノ徴アルニ非

レハ許ス可カラス此給與ス可キ資産ノ額ハ
全數十分ノ五ニ越エ可カラス餘ハ皆官ニ没
入ス可シ

囚人ノ親族若シ必需ノ故有レハ其預メ官ニ
貯フルノ半ヲ以テ之ニ與ルヲ得可シ

第十三 刑期計算

○佛蘭西

第四十條 一日禁錮スルノ刑ハ二十四時間ト
ス一月禁錮スルノ刑ハ三十日トス

第二十三條

第二十四條

右ノ二條ハ刑例重罪ノ部ニ載ス本條ニ就テ
省ル可シ

○獨逸

第十九條 凡刑ヲ行フニ一日ト称スルハ二十
四時一週日ト称スルハ七日ヲ以テス一月及
ト一年ト称スルハ曆表ニ依ル可シ

徒刑ノ期限ヲ算スルハ全何月ヲ以テシ其他
ノ實決ノ刑禁獄ヲ監禁ハ全何日ヲ以テス

第二十一條 八ヶ月ノ徒刑ハ一年ノ禁獄ノ刑
ニ同シ一年禁獄ノ刑ハ八ヶ月ノ監禁ニ同シ

第二十二條 徒刑或ハ禁獄ノ刑ニ處セラレ
ル犯人ハ其刑ノ期限ノ全部又ハ一部一人別
舎ニ入レ刑ヲ受ケシム可シ之レ全ク其期限
他ノ犯人ト別異スル為メナリ
別舎三年以上ハ囚人ノ承諾ニ非サレハ之レ
ヲ延ス可カラズ

○埃及

第二十條 有期ノ刑ノ期限ハ以前ヨリ預防ノ

為メ拘留セラレシ犯人ニ付テハ刑ノ言渡ノ
確定トナリシ日ヨリ之ヲ算ス可シ然レモ犯
人ノ裁判言渡ヲ控訴シ其刑期ヲ減ス可キノ
言渡ヲ得タル時ハ下等裁判所ノ裁判言渡ノ
日ヨリ其刑期ヲ算ス可シ

第二十一條 前數條ニ記シタル刑ヲ言渡スト
雖モ其犯人ヲシテ損害ヲ被リシ者ニ其損害
ヲ償ハシメ且ツ品物ヲ返還セシムルノ差支
トナルトナカル可シ

第四十七條 註誤ニ付テハ其刑期ヲ二十四時
ヨリ少ナカラズ一週ヨリ多カラズト為シ輕
罪ニ付テハ八日ヨリ少ナカラズ三年ヨリ多
カラズト為ス可シ但シ犯人ヲ預防ノ為メ拘

留セシ時ノ外ハ之ヲ獄舎ニ入レタル時ヨリ
其刑期ヲ算フ可シ

第四十八條 犯人ヲ預防ノ為メ拘留シタル時
ハ裁判言渡ノ日ヨリ其刑期ヲ算フ可シ但シ
第二十條ニ記シタル規則ヲ適用スルニ差支
トナル丁ナカル可シ

○白耳義

第二十五條 第二項
獄一日ト称スル者ハ二十四時トス獄一月ト
称スル者ハ三十日トス

第三十條 凡罪條未タ分明ナラサルノ前ヨリ
獄ニ繫ク者ハ其日ヲ判刑ノ期日ニ算入ス可

第三十四條 凡前條諸權利剥奪ノ年限ハ裁判
ニ依テ罪ヲ審断シ其罪案ヲ記スルノ日ヨリ
算ス可シ

右罪人ハ面ノアタリ判決ヲ受ルト受サルト
ヲ論セス罪科判決ノ日ヨリ其民權ヲ剥奪ス
ル者トス

○墾地利 七一年千八百六十
年ノ草按

第八十八條 有期羈絆ノ刑及ヒ罰金ニ付キ裁
判所ノ處分ヲ以テ罪科ヲ定メシ後ニ罪犯者
其蒙ル可キ罪ニ非スシテ受ケタル吟味間ノ
拘留ハ其既ニ定メシ罪科ノ一部或ハ全部ニ

適用セル者ト見做ス可シ然レ氏羈絆ノ刑ニ
於ル吟味間ノ拘留其本刑ト同時限ナルキハ
之ヲ本刑ニ代ヘ算入スルヲ其極度トス

○字漏生四月十八日五十一刑年

吟味間ノ拘留ヲ本罪ニ折算スルニ就テハ確
定ノ法則アラサルナリ

○撒遜九月十八日六十八年

第三十條 被告人若シ吟味間ノ拘留ヲ判然タ
ル原因アルニ非スシテ定メラレ或ハ其罪過
ニ非スシテ延期セラレ尔後有期羈絆ノ刑或
ハ罰金ヲ以テ處セラレ乃チ其罪科ニ就テ其

已ニ受ケタル拘留抑壓全部或ハ一部ニ着目
セラレ、キハ其間ヲ本罪ニ折算セラレ、丁
アリ

第三十二條ニ掲ケシ處罪時間ノ期限ニ付テ
ハ裁判官之ニ關係ス可カラス

○挨塞九月十八日四十一刑年

第三十四條 若シ犯者其拘留中過失アルニ非
スシテ吟味ヲ猶豫セラレ或ハ結局ノ裁断ヲ
延引セラレ後有期羈絆ノ刑ニ處セラレシキ
ハ裁判所ニ於テ其處断セシ羈絆ノ刑類ヲ問
ハス其罪ナクシテ受ケタル拘留時間ヲ公平
ニ酌量シ以テ其罪科中ヨリ減除ス可シ然レ

氏處罪ノ時ニ當リ上ニ記スル如ク之ヲ減除セサルハ其罪科ノ期限ニ就テ幾許ノ時日ヲ履ハ可キ確定ノ言渡ヲ為ス可シトス

○伊太利

第五十一條

一 刑法ノ處刑上ニ於テ一日ト称スルモノハ二十四時ヲ以テシ一月ト称スルモノハ三十日ヲ以テシ一年ト称スルモノハ普通ノ曆ニ依ル

第五十二條

一 有期實決ノ刑ニ處セラレタル者ノ期限ヲ起算スルニ其已ニ留置ニナリタル者ノ為ニハ其言渡シ裁判ノ確定シタル日ヲ以テ其初メトシテ留置ニナラサル者ノ為ニハ現ニ處決ノ刑ヲ執行スル日ヨリ其初メトス

二 裁判確定前ニ已ニ留置キニナリタル日數ヲ輕重罪ニ付キ處セラレタル刑ノ執行ノ期限中ニ其一部又ハ全部ヲ合算ス

可シ若シ所拂又ハ罰金ニ處セラレタルハ第四十三條及第五十四條ニ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ合算スヘシ

第五十三條

一 官職禁止停止及職業營業工業停止ノ刑ハ裁判確定ノ日ヨリ其効ヲ生シ而シテ

若シ重罪ニシテ欠席裁判ヲ以テ言渡サ
レタルキハ之ヲ廣告シタル日ヨリ三ケ
月ノ後ニ其効ヲ生ス

二 官職停止及職業營業工業停止ヲ他ノ刑
ニ附加シタル時ハ其期限ハ本刑ヲ經過
シ又ハ他ノ方法ニ依テ之ヲ消除シタル
日ヨリ始ルモノトス

○「チューリンケン」諸邦九一年ハ百四十

第六十條 強テ命セラレシ吟味間ノ拘留或ハ
罪犯者過失アルニ非スシテ延引セラレタル
吟味間ノ拘留ニ就テハ裁判官タル者其處決
セシ有期羈絆ノ刑或ハ罰金ヲ之ニ平均シ且

ツ其處罪ノ種類ヲ更メス之ヲ法ノ如ク最低
科ニ輕減ス可キノ權ヲ有ス又該犯罪者ハ其
處セラレシ羈絆ノ刑或ハ罰金ニ代ヘ吟味間
ノ拘留ヲ其罰ト為シ算計セラレ、トアリ

○疴敦堡 第一十月三日ノ刑法

第五十一條 已ニ處罪ヲ被リシ者其罪ニ非ス
シテ受ケタル吟味間ノ拘留ハ其處セラレシ
有期ノ羈絆刑中ニ折算セララル可ク且ツ其吟
味間ノ拘留ハ之ヲ城砦刑ト同視ス可シ

○不倫瑞克 七月十八日ノ刑法 第十年 第

第六十一條 其罪ニ非スシテ拘留セラレシ時

限ハ有期ノ羈絆刑中ニ折算セラル可ク且ツ
 此件ハ羈絆ノ刑類ヲ問ハス皆同一ニ見做ス
 可シ又此方法ニ於テ未タ終ラサル罪ノ殘期
 ハ其處セラル可キ罰ノ種類中期限ノ最モ僅
 少ナルモノニ之ヲ輕減シ而ノ罪ノ殘期ノ最
 モ僅少ナル時間第十五條ヲ自ラ殘留シ得サ
 ルキハ全ク之ヲ廢スルモ共ニ其拘留時限ヲ
 算計スルニ於テ異議ヲ為ス可ラサル者トス
 又同一ノ割合ニテ裁判官其吟味中若シ其下
 官及ヒ小吏ノ偶然不法ノ處分ヲ為シ犯者ニ
 有期羈絆ノ刑ヲ科シタル上更ニ加ヘタル枉
 害ハ熟慮酌量シ以テ之ヲ算計中ニ入ル可シ
 然レモ拘留或ハ前項ノ如キ枉害ヲ算計スル
 カ為メ原来其處ス可キ罪類ノ定法次叙ヲ廢
 ス可ラサルナリ

○撒遜亞敦堡第一千八百四十年刑法

第六十三條 判然タル証跡ナクシテ繫逮セラ
 レ或ハ被告人其過失ニ非ス意外ノ情狀ニ因
 テ延引セラレシ吟味間ノ拘留ニ付キ之ヲ處
 分スル裁判官ハ其言渡セシ有期羈絆ノ刑類
 ヲ更メス其種類ノ定法タル最輕ノ者ニ下シ
 或ハ其拘留ヲ其言渡セシ禁獄ニ代ヘ該犯者
 ノ罰ニ折算スル等ノ權ヲ有ス

○早堡一千八百六十九年刑法

第十六條 其罪ニ非スシテ吟味或ハ處分ノ間
ニ受ケタル拘留ノ時期ハ羈絆ノ刑及ヒ罰金
ニ之ヲ折算ス可ク又其拘留ニ因リ其罪ヲ全
ク消除セシモノト見做シ若クハ其幾分ヲ消
除ス可キノ處置ハ之ヲ裁判所ノ適宜ニ委ス
可シ然レ氏該時ニ當リ上ノ如ク減除セサル
ニ於テハ其處罪ノ期限ニ就テ幾許ノ時日ヲ
延展ス可キノ言渡ヲ為ス者ナリトス

○巴華里十一月十八日六十一刑法第

第八十三條 若シ被告人原來過失アルニ非ス
シテ一月以上吟味間ノ拘留ヲ受ケ而シテ有期
ノ徒刑及ヒ禁獄罪金ノ何レヲ問ハス處分ノ

上尋常ノ罪科ヲ言渡サラレシキハ其罪ナク
拘留セラレシ時間ヲ算シ即チ其時間ハ已ニ
本罪ヲ消除セシモノト見做ス可シ蓋シ罰金
ニ就テハ第二十七條ニ定メシ成規ニ準ス可
シ又其拘留セラル、時ニ當リ結局ノ處分ヲ
為スニ至ル可キ模様ハ預メ一定スルモノト
雖氏其繫逮ヲ免カル能ハサル拘留モ亦別ニ
罪ナクシテ之ヲ受ケタル者ト做シ勘考セサ
ル可ラス一千八百六十八年第五月
十六日ノ布告ニ見ユ
違令ニ因テ繫逮セラレシ吟味間ノ拘留ハ尽
ク算計中ニ入ル可キモノトス

○ビユルテハブル第一千八百三十一年
三月一日ノ刑法

第一百十四條 不法ニ繫逮セラレ或ハ被告人
 過失アルニ非スシテ警滞セラレシ吟味間ノ
 拘留ハ該者有期羈絆ノ刑ニ當ルキハ裁判所
 ノ適宜ニ從ヒ其處セラレシ期限中ニ罪ナク
 拘留セラレシ時間ヲ算入シ之ヲ減スルノ理
 アリトス
 又罪犯者違令ヲ以テ論セラル可キヲ裁判下
 官或ハ其小吏ノ為メ不法ノ處分ヲ蒙リ因テ
 受ケシ所ノ枉害ニ付テハ其處セラレシ罰期
 ヲ適宜ニ減除ス可キナリ
 其他何レノ場合ニ於テモ處罪ノ種類ヲ變ス
 ルトナク又其法則ノ次叙ヲ易ユルト太ク少
 レナリトス

罪犯者罰金ヲ以テ處セラレシ時亦適宜ニ從
 ヒ前項ノ模様ニ依テ斟酌スヘキナリ

○巴丁 一千八百四十五年第三月六日
 同ク五十一月五年第二月五日ノ刑
 法

第一百五十六條 (無罪ノ拘留) 若シ罪犯者具
 處分中不法若クハ無罪ニシテ警滞又ハ拘留
 セラレシ時該者有期羈絆ノ刑ニ當レハ其罰
 ヲ已ニ行ハレシ者ト為シ其不法ノ拘留時間
 及ヒ無罪警滞時間ヲ算シ以テ其時期ヲ本刑
 ヨリ減除ス可シ但シ其罪科ノ殘期ハ仮令其
 處セラレシ刑類中最輕ノ者ヨリ下ルト雖モ
 取テ之ニ関セサルナリ

第一百五十七條 若シ處分ノ際不法ニ拘留セラレ或ハ過失アルニ非スシテ警滞拘留セラレシ罪犯者ノ罰金ニ當ル時上ト同シク之ヲ減除スルニハ第一百六十二條ニ記載スル如ク犯者ノ罰ヲ禁獄ニ代ル為メ決定セシ所ノ成規ニ照準シ其方法ヲ用フヘシ

第一百五十八條 前第一百五十六條及ヒ第一百五十七條ニ記載セシ諸件ノ外處分ノ際ニ受ケタル拘留ハ之ヲ減罪ノ中ニ算入ス可シ然レ氏罪犯者其犯セシ事件ヲ明述セス或ハ其事件ノ曖昧ナルカ為メニ警滞セシハ犯者ノミ自ラ致ス所ナレハ之ヲ前件ト同視ス可キニ非ス

裁判下官或ハ小吏ノ無法ナルヨリ罪犯者ノ受ケタル他ノ枉害モ亦其罪ヲ科スルニ就テ之ヲ減除ス可キ者ナリトス

○丁抹 第一百八十六年十一月十日ノ刑法

第五十八條 若シ罪犯者裁判處分ノ際原來拘留セララル可キニ非レ氏保護ノ為メ久シク拘留セラレシ時其罪ヲ科スルニ就テハ之ヲ減ス可キ者トス可シ若シ又該者ノ拘留尋常ノ線綫費ヲ以テ禁獄セラレ其時限ノ短キ時ハ裁判官ノ酌量ニ從ヒ其受ケタル保護ノ拘留ヲ以テ該罰ニ易フ可シ

第二十五條 假出獄及ニ其呼戻ノ達書ハ司法上官ノ權ニアルト雖モ假出獄ノ達書ヲ渡スハ獄官ノ意見ヲ聞キタル上ニアラサレハ之レヲ為スコトヲ得ス

若シ人民ノ安寧ニ関スル至重ノ事アレハ假出獄人ノ住所ノ警察官吏ヨリ其出獄人ヲ假ニ捕縛セシムルコトヲ得可シ捕縛シタレハ直ニ仮出獄停止ノ達書ヲ請フヘシ

若シ仮捕縛ノ後出獄停止ヲ達シタレハ其出獄停止ハ期限捕縛ノ日ヨリ起算ス可シ

第二十六條 仮出獄ヲ許サレタル人其停止ナク罪案上ニ定メタル期限ヲ終レハ満期トス

○伊太利

第五十八條

一 三年以上ノ徒場内驅役ノ刑、追放ノ刑、禁獄ノ刑囚獄ノ刑ニ處セラレタル者其刑期四分ノ三ヲ經過シ己ニ犯人悔悟改心ノ證ヲ表スルキハ犯人ノ兼知ノ上假ニ出獄ヲ許スコトヲ得可シ

二 假リ出獄ヲ許サレタル者ハ政府ノ監察ニ付ス

三 若シ假リ出獄ヲ許サレタル者行状悪ク又假出獄達書ヲ以テ命セラレタル事ニ背戻スル時ハ仮出獄ヲ廢シ而シテ先キニ言渡シタル刑ノ殘期ヲ受シム

四 假り出獄ハ犯人其刑ヲ受ル獄舎ノ規則院
ノ申立ニヨリ司法内務兩卿ノ達書ヲ以テ
之ヲ許可シ又其廢止ハ警察官ノ申立ニヨ
リ兩卿ノ達書ヲ以テ之ヲ廢止ス警察官ハ
人民ノ安寧ニ関スルコトアレハ其出獄人ノ
捕縛ヲ命スルコトヲ得可シ然レモ之ヲ捕縛
シタレハ直ニ假出獄廢止ヲ求メサル可カ
ラス

第五十九條

- 一 假出獄ヲ許サレタル者其廢止ナク刑期ヲ
終レハ滿限トス
- 二 若シ出獄ヲ許サレタル者ヲ捕縛シタル後
出獄廢止ヲ達シタレハ其出獄廢止ノ効ハ

捕縛ノ日起算ス可シ



